



北東北の交流拠点都市をめざして

平成17年9月20日、角館町、田沢湖町、西木村の2町1村が合併し、新生仙北市が誕生しました。

本市は、武家屋敷に代表される歴史と文化の薫り高い角館地区、水深日本一の田沢湖や秋田駒ヶ岳に代表される自然景観に恵まれた田沢湖地区、そして、田園風景や森林を活用した都市と農村の交流が盛んな西木地区など、内外に誇れる豊富な資源にあふれています。

こうした特色を十分に活かし、合併協議により策定された新市建設計画の基本理念を継承しつつ、より発展的、具体的なまちづくりの指針として、「仙北市総合計画」を策定しました。

そして、本計画において、仙北市の将来像を「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」と定め、「交流」という言葉をキーワードに、定住人口3万人、交流人口1千万人のまちづくりを強力に進めることにしたところであります。

また、計画に掲げられた施策の推進にあたっては、主要課題について、「定住対策プロジェクト」、「テンミリオン計画プロジェクト」、「産業連携プロジェクト」の3つの重点プロジェクトを設定し、それぞれ具体的な方策を講じていくことにしております。

地方分権や三位一体改革が進む中で、地方自治体を取り巻く状況は厳しいものがあり、今後、より一層の行財政改革を進めることが求められていますが、地域の均衡ある発展と市民の一体感の醸成を図り、仙北市の将来像を具現化するために、32,000人市民の参画と協働のもとに、本計画を着実に実行して参りたいと存じます。

最後になりましたが、本計画の策定にあたっては、市民2,000人を対象にまちづくりアンケート調査を実施したほか、市議会でのご審議、地域審議会の答申など、多くの市民の皆様からご意見、ご提言をいただいたところであります。

関係各位のご協力に心から感謝申し上げますとともに、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げ、発刊にあたっての挨拶といたします。

平成18年12月

仙北市長 石黒直次